

2021年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、XとYの罪責について論じなさい(ただし、住居侵入罪および特別法違反の点を除く)。(配点: 100点)

(設例)

XとYは、建築会社に勤める会社員であるが、いずれも上司のAと折合いが悪かったことから、Aを困らせるため、A宅からAの金品を持ち出して廃棄しようとした。XとYは、その具体的な方法について協議し、XがA宅に忍び込んで金品を持ち出すこととした。Yは、A宅が留守になる時間帯を調べてXに伝えるとともに、玄関ドアの鍵を開けるための道具を用意してXに渡した。

Xは、Yから提供された情報に基づいて、3日後の午前10時に上記の計画を実行することとし、Aの留守中に、Yから渡された道具を使ってA宅の玄関ドアの鍵を開け、A宅内に入った。Xは、居間でAの現金10万円を発見した。Xは、現金を費消してもAを困らせることには変わらないので、どうせなら現金を遊興費に充てようとするに至り、その現金10万円を自分の鞆に入れた。

そのとき、Xは、忘れ物を取りにA宅に戻って来たAと鉢合わせになった。Aが「泥棒」と叫んでXを捕まえようとしたことから、Xは、現金を持って逃走するためにはAを殺害するしかないと考え、居間のテーブルに置いてあったナイフ(刃体の長さ20センチメートル)でAの腹部を刺し、前記鞆を持って逃走した。Aは、Aの叫び声を聞いて駆けつけた隣人に救助されて病院に搬送され、治療を受けた。Aは、適切な治療を受ければ確実に救命される状態だったが、治療を担当した医師が初歩的な治療ミスをしたため、その治療ミスにより出血死した。